



11月号

園長だより

H27. 11. 27
新渡戸文化子ども園

「現象」と「本質」

幼児教育の本質とは？という問いに、とても印象深い答えを聞いたことがあります。

「良い子供を育てることではなく、よい大人を育てること。」

この幼児教育の本質を見失ってしまうと、時に保育で間違ってしまうことがあります。大人が育てやすい「良い子供」を育てるのではなく、その子が大人になった時に「良い大人」になるためには、今何を教えるべきなのか？

そこを見失ってしまい、目の前のことにとらわれすぎると保育活動が時に間違ってしまうことがあります。

例えば、制作活動をしている時、一緒に使っていたテープを友達が使おうとした時に、「それは私が使うから、ダメ！」と言っているのを見て、先生が「一緒に使いましょね。」と言います。そして、どうして一緒に使うのかの意味をわからないまま「先生が言ってるから、そうする。」と、行動します。

しかし、「このテープは皆で一緒に使うものですよ。もし、自分が使おうとしたものをダメ、と言われたらどう思いますか」「嬉しいですか？悲しいですか」と、聞いて一緒に考えます。すると、次に同じような場面になったとしても、先生不在だとしても、「お友達と一緒に使わないとかわいそうだよ！」と友達同士で解決ができるようになります。

このように、出来事の現象を捉えて話をするのではなく、本質を捉えて丁寧に話をするのがとても大切なことだと思います。

そして、それが「よい大人に育てる」なのではないかと考えます。

さて、大人はどうでしょう？

指摘をされた時、その指摘をされた事の「現象」だけをとらえるのではなく、その「本質」を考え、解決を繰り返していった時、より「よい大人」になり、子ども達の規範となっていけるのだと、襟を正したいと思います。

鴨志田先生

昨年度ことり組担任、鴨志田先生が子ども園に遊びに来てくださいました。現在育児休暇中で、かわいい女の子を連れていらっしやいました。

子育てをし、おかあさんらしくなられた鴨志田先生は、以前に比べてたくましいそして今まで以上にやさしい「母」の表情でした。

ご復帰されることを楽しみにしています。

